

柳 宗悦 (やなぎ・むねよし) 1889~1961

民芸運動創始者・宗教哲学者・美術評論家 ~ 民衆芸術の発見者 ~

出生 1889年(明治22)3月21日、東京市麻布区(現・港区麻布)に生まれる。父権悦は旧津藩藩士で海軍少将、貴族院議員(1890)。母勝子は講道館柔道創始者・嘉納治五郎の姉。父親とは2歳で死に別れた。

履歴 初等科から学習院で学び、1910年高等科を首席で卒業、東京帝国大学哲学科に入学する。大学では心理学を学び、1913年卒業した。1914年声楽家の中島兼子と結婚、その後夫妻で出かけた朝鮮旅行(1916年)で民芸に関心を持ったのをきっかけに、1924年朝鮮民族美術館の設立に至る。同様に1936年には東京駒場に日本民藝館を設立、初代館長となる。1957年には文化功労者の顕彰を受けた。

事績 学習院高等科時代に同人雑誌『白樺』の創刊(1910)に参加したのはじめ、柳はいくつかの雑誌を創刊している。『工藝』(1931)、『ブレイクとホ井ツトマン』(1931)、『月刊民藝』(1939)がそれである。これらの雑誌に掲載する論文を執筆するにあたり、柳は調査のため頻りに朝鮮や日本各地を旅行した。柳が起こした民芸運動は、彼の数多くの講演やその著作、日本民藝館の運営など、精力的な活動により共感者を呼び、河井寛次郎、濱田庄司ら民芸運動の代表的作家の実作活動や、バーナード・リーチら海外からの共鳴もあって、次第に人々へ普及していった。

評価 民芸運動の創始者である柳は、芸術家がつくる作品ではなく、それまで省みられることのなかった職人・民衆の作る「民芸」に着目し、日常使う道具の中に美を追求した点で評価されている。また、沖縄や朝鮮の工芸に着目し、紹介した功績は大きい。その後も東北地方、アイヌ、台湾の工芸の紹介に努めている。ただし、朝鮮民芸についての柳の考え方にはその美を不当に朝鮮民族の悲哀と結びつけたとする批判もあるが(崔夏林「柳宗悦の韓国美術観」)、それに対する反論も、日本の朝鮮支配という当時の状況での柳の思想・行動を評価することで、行われている。

代表作

『モリアム・ブレイク』25歳のときの著作。当時のブレイク研究としては世界に通用する大著であり、独自のブレイク観を展開した名評伝である。750ページを超える大部なもの。全集第4巻に収録。

「木喰上人の研究」江戸時代、各地に木喰仏を遺した五行明満の足跡をたどる。全集第7巻に収録。

『工藝の道』雑誌『大調和』創刊号(春秋社 1927.4)から1928年1月まで9回にわたって連載された長編論文を大幅に改訂増補したもので、民芸分野のみならず、工芸全般に関して情熱的かつ明快に説かれた名著である。本書によって啓蒙され民芸運動に加わった者も多い。全集第8巻に収録。

キーワード 民芸 この言葉は、民衆の「民」と工芸の「芸」を結びつけた柳の造語である。英訳の場合は、Folk Artではなく、Folk Craftと表現した。

ポイント 兼子夫人は日本を代表するアルト歌手であり、『カルメン』のハバナを日本初演する(1914年)など、日本歌曲界に大きな功績を残した。ドイツ留学後(1929)は演奏活動を続けながら後進の指導に当たり、その収入が柳家の生活を支えた。

最期 1961年(昭和36)5月3日、脳溢血のため東京・飯田橋の警察病院で死去。享年72歳。



田村茂撮影

Great Works 25

柳宗悦全集 全22巻 筑摩書房 1980~1992年 <750.8/16>

解題 図書及び雑誌や新聞に寄稿された大量の論文や未発表原稿、書簡、講演・談話の記録にいたるまで、網羅的に収録されている。その際参考にされたのは、『柳宗悦選集』<750.8/2>であり、『民藝大鑑』(柳が蒐集した日本民藝館蔵品を収録)<750.8/18>からもいくつか採録されている。巻数を順に追っていくと、柳がどのような思想の変遷をたどったかがよく分かるようになっている。編集委員の1人である寿岳文章は、研究雑誌『ブレイクとホ井ツトマン』を柳と共に刊行した人物である。

内容

第1巻 = 科学・宗教・芸術 初期論集 科学と人生[初山書店 1911年 柳の最初の単行本]他 * 学習院在学時に『白樺』や『輔仁會雑誌』に掲載された論集等

第2巻 宗教とその真理[叢文閣 1919 神秘道に関する最初の宗教哲学論集] 宗教的奇跡[叢文閣 1921]

- 他 *初期の宗教哲学論考
- 第3巻 宗教の理解 [叢文閣 1922] 神に就て [大阪毎日新聞社 1923] 他
- 第4巻 中リアム・ブレイク [洛陽堂 1914 柳畢生の名著]
- 第5巻 = ブレイクとホヰットマン 【論文】ホヰットマン研究入門 [1931-32 雑誌『ブレイクとホヰットマン』所収] 他 *英文学関係の論考も収める
- 第6巻 朝鮮とその藝術 [叢文閣 1922 発表済みの朝鮮関係主要論文集] 他
- 第7巻 = 木喰五行上人 【論文】木喰五行上人の研究 [木喰五行研究会 1925 研究雑誌『木喰上人の研究』特別号] 他 *円空仏及び民間仏像彫刻についての論考も収める
- 第8巻 工藝の道 [ぐろりあそさえて 1928 柳工藝美学の基本的文献] 他 *工藝に関する著述 (総論)
- 第9巻 = 工藝文化 美術と工藝の話 [章華社 1925 簡潔平明に整理された入門書] 工藝文化 [文藝春秋社 1942 『工藝の道』以来の総合的な工藝論。柳工藝美論を確立した名著] 他
- 第10巻 = 民芸の立場 [工藝に関する総論的な著述]
- 第11巻 手仕事の日本 [靖文社 1948 青少年を対象に書かれた著作。当時の手工芸についての貴重な記録] 他 *工藝に関する論考 (工藝各分野 染織・木竹・編組・金石・和紙)
- 第12巻 【論文】陶磁器の美 [新潮社 1921 雑誌『新潮』初出] 他 *工藝各分野の論考 (陶磁器)
- 第13巻 = 民画 *大津絵に関する論文等、工藝各分野に関する論考 (絵・模様・書・拓・表具)
- 第14巻 = 個人作家論・船筆筍 [バーナード・リーチ、富本憲吉、河井寛次郎、濱田庄司、棟方志功等民芸運動に関わりのあった個人作家や知友についての著述]
- 第15巻 = 沖縄の伝統 [沖縄に関する著述を中心に、アイヌ、台湾、中国その他の工藝についての著述]
- 第16巻 = 日本民藝館 日本民藝美術館設立趣意書 [工政会出版部 1927 『雑器の美』所収 元は1926年民芸運動を具体化する手段として企画されたパンフレット] 他 *執筆年限 1926~1960年のもの
- 第17巻 = 茶の改革・随筆 () 茶の改革 [春秋社 1958 茶道改革論を中心に柳の茶についての思想を集約] 【論文】茶道を想ふ [『工藝』49、50、54号 (1935) 所収 柳の茶道論の出発点] 他
- 第18巻 = 美の法門・随筆 () 美の法門 [1949] 無有好醜の願 [1967] 美の浄土 [1960] 法と美 [1961] *晩年の美思想私家本4部作 心偈 [私家本 1959 棟方志功版画の美しい詞画集] 他
- 第19巻 = 南無阿彌陀仏・随筆 () 南無阿彌陀佛 [大法輪閣 1960] 他
- 第20巻 = 編集録 [雑誌『白樺』『工藝』『月刊民藝』『大調和』等の後記や雑記を中心に収録]
- 第21巻 = 書簡上・中・下 (3冊) [書簡4303通、うち英文書簡85通]
- 第22巻 = 補遺・未発表論考・年譜他 上・下 (2冊)

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- 📖 日本民藝館所蔵李朝の工藝 / 森谷美保編
そごう美術館 2002年 122p <K70.1 / 41 / 2002-5> 資料番号 60361888 * 展覧会図録
- 📖 柳宗悦手としての人間 (平凡社選書 221) / 伊藤徹著
平凡社 2003年 277p <289.1MM / 4281> 資料番号 21623020
- 📖 柳宗悦時代と思想 / 中見真理著
東京大学出版会 2003年 388,5p <289.1MM / 4259> 資料番号 21587472
- 📖 柳宗悦 (平凡社ライブラリー69) / 鶴見俊輔著
平凡社 1994年 320p <289.1 / 3441> 資料番号 20748455
- 📖 評伝柳宗悦 / 水尾比呂志著
筑摩書房 1992年 356,44p <289.1AA / 3066> 資料番号 20470001
- 📖 柳宗悦と初期民藝運動 / 岡村吉右衛門著
玉川大学出版部 1991年 248p <750.21 / 2> 資料番号 20386355
- 📖 柳宗悦と共に / 寿岳文章著
集英社 1980年 349p <H751 / Z> 資料番号 71413108
- 📖 「美の法門」柳宗悦を読む / 水尾比呂志著
東峰書房 1980年 124p <701.1 / 54> 資料番号 11654647

<図書(部分)>

- 📖 日韓の架け橋となった人びと / 東アジア学会編
明石書店 2003年 p88-120 <281MM / 240> 資料番号 21656053

<雑誌論文>

- 📖 柳宗悦の韓国美術観 / 崔夏林著
展望 (筑摩書房) 211号 [1976.7] <Z051 / 7>